

第27号

クラーク会だより

認定特定非営利活動法人

クラーク博士別れの地・久蔵の里普及促進会

(略称:認定NPO法人 クラーク会) ホームページ: <https://npo-clark.com/>

事務局:

061-1277 北広島市大曲

光4丁目1-8

菊川 昭夫

TEL/fax:011-377-1630

Email:

npo.clark@gmail.com

Boys, be ambitious! NPO クラーク会はクラーク博士と中山久蔵翁の業績・精神を普及し、「クラーク博士馬上像」建立を目指しています。

クラーク博士と教育精神(2)

— クラーク博士の招聘と来日 —

秋林幸男(本会理事)

クラーク博士の招聘

1874(明治7)年3月に開拓使長官の黒田清隆は政府に米国人教師3名(1名は教頭を兼ねる博士)の招聘を願い出て、4月には外務省を通じて森有礼の後任であるアメリカ駐在公使吉田清成にその適任者の選定を依頼しました。吉田公使は適任者を探した結果、コネチカット州の教育長バーズイ・ノースロップ(Birdsey G. Northrop 1817~1898)から紹介されたマサチューセツ農科大学長W.S. クラーク博士との交渉するまでにこぎつけます。ノースロップは11月3日にクラーク博士と会見して日本行を打診し、12月20日には吉田公使とクラーク博士が会見しましたが、クラーク博士が農科大学の学長の要職にあり、交渉は難航したといえます。

だが、クラーク博士は、開拓使からの要請に答える決断をして1875年の1月に大学理事会から一年間の休暇の許可を得て、3月2日にワシントンで日本公使吉田清成と、クラーク博士のほか二名(教養子のホイラー、ペンハロー)とともに日本招聘の契約を結びました。クラーク博士は一年滞在で報酬は年7,200円(ちなみに農科大学学長の年俸は4,000円、開拓使顧問のホーレス・ケプロンの報酬は年10,000円)です。ホイラーの報酬は年3,000円、ペンハローの報酬は年2,500円で、2年間滞在中という契約でした。

なお、ノースロップは、1845年にイエール大学神学部を卒業して12年間組合派教会の牧師をした後、1857年からクラーク博士が農科大学の誘致・創設に奔走しているときのマサチューセツ州の教

育委員会に勤務し(この時にクラーク博士と知り合ったと思われます。)、クラーク博士が農科大学の学長に就任した年にコネチカット州の教育長に任ぜられました。

また、森有礼からの書簡による問い合わせに対応し、日本からの留学生(開拓使派遣の5人の女子留学生なども)の世話をし、さらに下関事件で日本からの賠償金のうちアメリカが受け取った約100万ドルのうち80万ドルの返還運動の中心人物の一人でもありました。しかも、ネブラフスカで始まった植樹の教育的意義に着目して学校の植樹日としてアメリカ全土に広げる提唱者であり、1895(明治28)年に78才で来日して40回の講演で学校植樹を紹介して、日本での植樹祭の定着に貢献しました。

クラーク博士一行の日本への旅程

クラーク博士一行は前述の契約に基づき1875(明治8)年の5月15日にアマーストを発ち、ボストンからフィラデルフィアまで鉄道で南下しました。この日本行には合流場所は不明ですが、日本公使館の浅野某書記官と吉田公使婦人の親戚の女性が合流したと伝わります。フィラデルフィアに滞在中に約300冊の本を三個の大箱に詰めて札幌宛に発送しました。これらの書物は、札幌農学校の学生たちの英語力と学力を鍛えるものとなったと思われます。

5月20日にフィラデルフィアから大陸横断の鉄道旅を開始してシカゴを通り、オハマ(ネブラスカ州)からは1859年に開通したユニオン=セントラルパシフィック鉄道で5月29日にサンフランシスコに到着しました。サンフランシスコでは日本の情報を収集のために幾度か日本領事館を訪れ、カリフォルニア大学の動物学、鉱物学、植物学関係の施設を